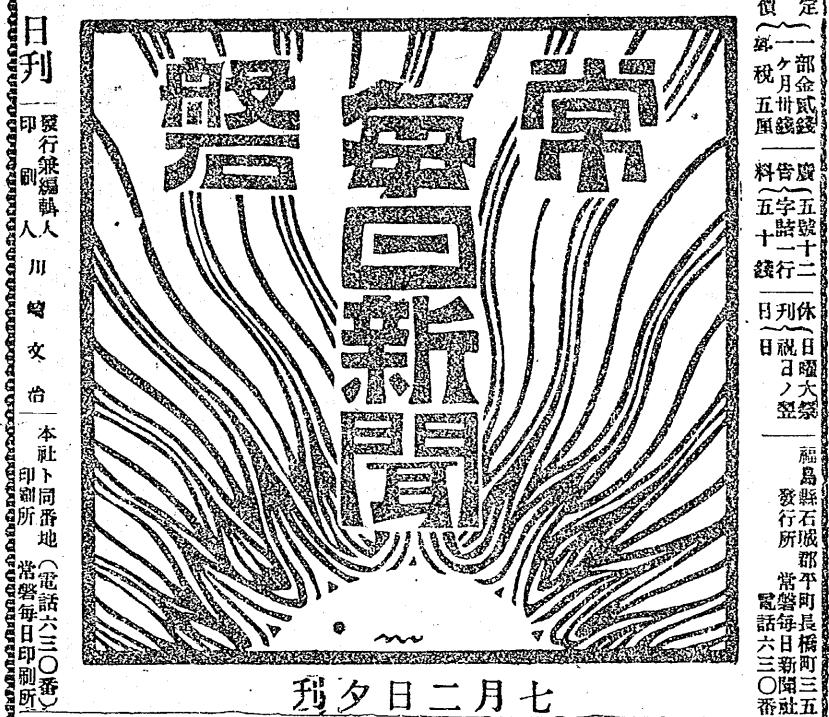


(一) (號三十五千一第) 聞新日磐常 (日八月一十年二十正大) {可認物便郵種三第}

(可認物便郵種三第) (號三十五千一第) 聞新日磐常 (日曜日) 日三月七年二和昭 (四)



刊夕日二月七

日刊 (發行兼編輯人川崎文治 本社下同番地 (電話六三〇番) 常磐毎日印刷所 (電話六三〇番) 福島縣石成郡平町長橋町三五番)

定一  
一部金販錢  
一ヶ月五  
五五  
料費  
五字  
五號  
十一行  
一  
日刊  
祝日  
日曜大祭  
福島縣石成郡平町長橋町三五番

發行所 常磐毎日新聞社 電話六三〇番

印 制 (電話六三〇番) 常磐毎日印刷所 (電話六三〇番)

常磐文藝

常磐文

## 近く賣物になる

### 平刑務所の敷地

建物ぐるみ二千坪

平町が引受けろか

平刑務所は當時所報の如く司法當局の豫算の關係ではそれを縮少する事となり既決囚は全部福島刑務所に移送し將來も未決囚のみを收容する方針である爲め看守其他の係人員を半數以下に減じたが其結果として建物及び敷地の大半が不要に歸する事になつたので當局にて是れを拂下處分に附し得

縫費に當てる事になつた、而して其坪數は約二千坪（現在敷地二千八百坪と稱されて居る）が拂下げ入札期日は近く發表さるべき筈に是れに對し平町は同敷地を擴張すべき計劃を有して居ると

### 平町の水田に……昨日から唧筒で揚水

干天續きで水不足な

廿五町歩を潤ほす

事から精勤證書を附與せらる

### 飛ぶ様に

賣れるメロン

平町字北目方部の水田約一十五町歩は田植後の干天續きから灌漑水に不足し困つてゐるが非常干害の場合は平町において揚水ポンプによより灌がいする事になつてゐるので同町鈴木宗五郎外二名は三十日町役場に出頭して陳情し一日から實施する事となつた

### 知事の賞狀

精勤證書附與

平警察署渡部泰治、巡查高橋勝藏、同高橋敬正、同佐川富壽の四氏は行狀方正にして勤務勉勵事務に熟達の故を以つて六月卅日伊東知

平町では大正八九年の好況時代に遭遇し俄に著しき戸數人口の膨脹を見るに至つたので住宅難に陥れる

居住民 が郊外地を目ざして居を構へ市外に大市街地を建設せしめんとするが如き趨勢に赴きたる結果郊外地に住宅を建設せると見るや既に二三戸にて一つの字町名を附し大なる發展を夢みて字町を新設せるため現在にては七十六ヶ字

### 町民に知られぬ 字町が廿ヶ町以上

益々膨張する平町

存立を見ることに至り

戸數四千七百前後の町とし

て稀に見る多数字町を有し

てゐるが一ヶ町の戸數平均

は六十一戸強で尼子町梅本

龍子町釜ノ内菱川等をはじめとして町民に知られぬ字

町が二十ヶ町以上に達してゐる

### 此壁一重

ママならぬは

平穀物検査所の四倉驛前檢

僅かに泉村方部に限られて居るが將來國庫から低利資金を借り受けて溫室を設置

じメロン栽培の獎勵を期する筈である

### 共同保全の見地で

水没廢坑の復活に努力

▼監督局が考究

常磐炭界各炭礦は頻々して水没の災害に見舞はれ不

詳事をも起しそうな有様で各炭礦當局間には水害の豫防調査會の設立が提唱され

てゐたが今回監督局當局では水没廢坑の復活に努力す

ると共に水害豫防についても其同保全の見地から慎重考究されてゐる様子なので

近く何等かの具体的方法が講せられるものと見られる

常磐炭界各炭礦は頻々して水没の災害に見舞はれ不詳事をも起しそうな有様で各炭礦當局間には水害の豫防調査會の設立が提唱され

てゐたが今回監督局當局では水没廢坑の復活に努力す

ると共に水害豫防についても其同保全の見地から慎重考究されてゐる様子なので

近く何等かの具体的方法が講せられるものと見られる

件を自白したと

平履物組合で

午後二時より炭屋旅館にて

協議會を開き値段維持に就いて申合せを爲したと

基督婦人講演 平町

材木町バブテスト教會にて

は今晩八時より婦人講演會

を開き尙絅高等女學校教諭メリーズエッシャー女史の講演ある由

△耳の兎 拍手喝采が仇 長

野縣北安曇郡平村字海の口平林勝(二)

△尼子稻荷 假名は學校から

上小川居住國玉八郎(一)假名といひ本年一月中に同村

々長宅の土藏を破つて衣類を窃取した事實が判明した

れ當時石城郡上小川村大字

名といひ本年一月中に同村

々長宅の土藏を破つて衣類を窃取した事實が判明した

△漁る少年賊

水天宮の祭り 平町

鐵治町水天宮にては今晚宵

祭を執行し花相撲や生花陳

登つた刹那頂上の高壓線に觸れて真つ逆さまに墜落瀕死の状態である

半分遊んでゐるうち輕業の眞似をすると友達の拍手喝采に乘氣になり上へと登る途中電柱に攀登り面白

登つた刹那頂上の高壓線に觸れて真つ逆さまに墜